

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課長  
担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道180号 <small>おかやまにし</small> 岡山西バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自： <small>おかやまけんおかやましみなみくこしんでん</small> 岡山県岡山市南区古新田 至： <small>おかやまけんおかやましきたくならづ</small> 岡山県岡山市北区櫛津			延長	5.6 km	
事業概要	<p>一般国道180号は、<small>おかやま</small>岡山市を起点として、<small>まつえ</small>松江市へ至る延長約170kmの主要幹線道路である。  <small>おかやまにし</small>岡山西バイパスは、岡山市内の交通混雑の緩和及び交通安全の確保を目的とした延長5.6kmの道路である。また、<small>おかやまかんじょうどうろ</small>地域高規格道路「岡山環状道路」の一部を構成するものである。</p>					
S54年度事業化	S53年度都市計画決定	S57年度用地着手	S59年度工事着手			
全体事業費	約910億円	事業進捗率	70%	供用済延長	2.5 km	
計画交通量	56,200 ~ 77,800 台/日					
費用対効果分析結果	B/C <small>(事業全体)</small> 1.4 <small>(残事業)</small> 5.0	総費用 <small>(残事業)</small> / <small>(事業全体)</small> 189 / 1,096 億円 （事業費：167 / 1,066 億円 維持管理費：21 / 29 億円）	総便益 <small>(残事業)</small> / <small>(事業全体)</small> 947 / 1,528 億円 （走行時間短縮便益：698 / 1,210 億円 走行経費減少便益：164 / 191 億円 交通事故減少便益：85 / 127 億円）	基準年	平成21年	
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
交通量変動	B/C = 6.3 (交通量+10%)		B/C = 4.2 (交通量-10%)			
事業費変動	B/C = 4.6 (事業費+10%)		B/C = 5.5 (事業費-10%)			
事業期間変動	B/C = 4.7 (事業期間+20%)		B/C = 5.4 (事業期間-20%)			
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渋滞損失時間の削減が見込まれる (33,278千人・時間/年⇒31,515千人・時間/年 約5%削減)</li> <li>・現道における混雑時旅行速度の改善 (16.2km/h⇒27.8km/h)</li> <li>・バス路線の新設による利便性向上や総社駅、倉敷駅から岡山市方面に向かうバス路線の定時性が確保されるなど利便性が向上</li> <li>・総社市から岡山駅（新幹線駅）へのアクセスが向上（総社市役所～岡山駅：65分⇒55分）</li> <li>・玉野市から岡山空港へのアクセスが向上（玉野市役所～岡山空港：110分⇒85分）</li> </ul> <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総社市から西岡山駅へのアクセスが向上（総社市役所～西岡山駅：50分⇒40分）</li> <li>・総社市から岡山港（重要港湾）へのアクセスが向上（総社市～岡山港：90分⇒65分）</li> <li>・農林水産物を主体とする地域：岡山市（桃、ぶどう）、主な出荷先：岡山県内、京阪神方面</li> </ul> <p>③都市の再生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業と連携（西部第4地区土地区画整理事業（49.0ha）、西部第5地区土地区画整理事業（18.2ha））</li> </ul> <p>④国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上（倉敷市～岡山市：75分⇒60分、総社市～岡山市：70分⇒50分）</li> </ul> <p>⑤個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な観光地へのアクセス向上（吉備津神社等、岡山市・吉備路エリアの入り込み客数（H19）：1,760千人/年）</li> </ul> <p>⑥安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三次医療施設へのアクセス向上（総社市役所⇒岡山赤十字病院：35分⇒30分）</li> </ul> <p>⑦安全な生活環境の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・死傷事故件数の削減（4,753件/年⇒4,700件/年 約1%削減）</li> </ul> <p>⑧地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2排出量が約10千t/年（約0.4%）削減（2,548千t/年⇒2,539千t/年）</li> </ul> <p>⑨生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NOX排出量が約47t/年（約0.4%）削減（10,729 t / 年⇒10,682 t / 年）</li> <li>・SPM排出量が約4t/年（約0.5%）削減（911 t / 年⇒907 t / 年）</li> </ul> <p>⑩救急医療を考慮した効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間短縮約2分、約2人/年が便益享受【59億円※】</li> </ul> <p>⑪環境への影響を考慮した効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約10千t/年のCO2削減【5億円※】</li> </ul>					
※は、供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）						

関係する地方公共団体等の意見  
 「岡山西バイパスは岡山市中心部への通過交通の流入を抑制するとともに、中心部へアクセスする交通を適切に分散処理するための環状道路（外環状線）の一部として位置づけられております。また岡山操車場跡地等に新たな広域都市機能を集積させる「西部新拠点」地区整備事業においても欠くことのできないものとなっております。早期完成を望みます。」  
 一般国道180号岡山県整備促進期成会（岡山市長・岡山市議会議員・総社市長・総社市議会議員・高梁市長・高梁市議会議員・新見市長・新見市議会議員）

岡山市長の意見：  
 一般国道180号岡山西バイパスの再評価に係る対応方針（案）について、異議ありません。  
 なお、地域高規格道路「岡山環状道路」は、岡山市街地の渋滞緩和や街づくりにおいて非常に重要な道路であると考えており、その一部を構成する一般国道180号岡山西バイパスについては、引き続き整備促進が図られるよう要望します。

事業評価監視委員会の意見  
 事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等  
 ・周辺開発の増進や人口増加に伴い、慢性的な渋滞や交通事故が多発している。  
 ・国道180号総社一宮バイパスや国道180号岡山環状南道路が事業中であり、また、（県）岡山倉敷線、（県）川入厳井線の4車線化など、岡山西バイパスとの一体的整備が進められている。

事業の進捗状況、残事業の内容等  
 平成20年度末で用地買収については概成しており、現在までに古新田～西長瀬間の街路部（4車線）2.5kmが暫定供用済み。

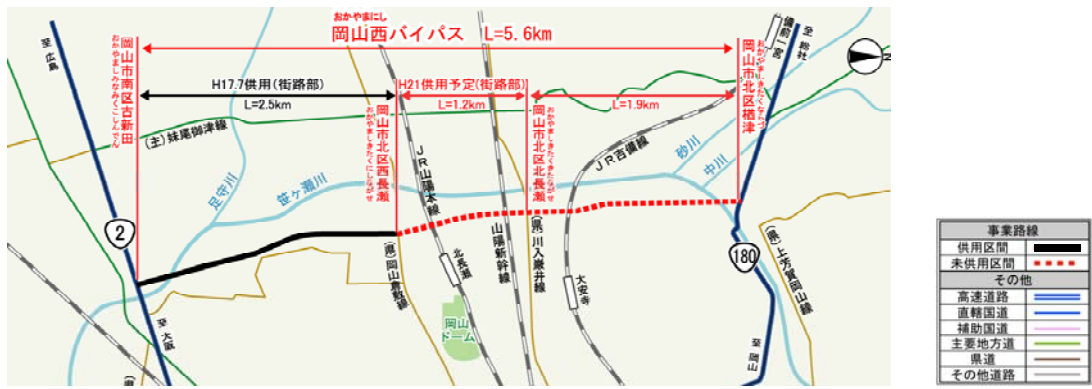
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等  
 平成21年度末に西長瀬～北長瀬間の街路部（2車線）1.2kmの暫定供用を予定しており、残る区間の工事も実施している。

施設の構造や工法の変更等  
 機能分離型支承の採用により、コスト縮減を図っている。【約0.7億円の減少】

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由  
 以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。